

# 言葉の壁なくそう

## 小中高生向け 日本語教室拡充

県内在住の外国人に日本語を教えている市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」(徳島市)が、今月から日本語を母国語としない小中高生向けに開く教室を従来の月1回から週1回に増やした。言葉の壁から学校生活になじめない児童や生徒も少なくなく、支援態勢の充実を目指す。JTMとくしまの兼松文子会長は「自宅や学校だけでなく、子どもたちの居場所の一つになれば」と話す。

### JTMとくしま 月1回を週1回にとくしま

JTMとくしまは97年、日本語教師の勉強会として発足し、県内で働く外国人研修生らに日本語指導を始めた。現在、元教諭や会社員などさまざまな職種約50人が所属し、うち13人が日本語教師

として活動している。外国人の子どもを対象とした教室は、02年から夏休みに限り開いていたが、継続した支援が必要と月1回の「にほんご寺子屋」を09年3月に開講。今年度、国の日本語教育に

関する事業の委託を受けることになり、週1回に拡充した。教室は1回90分。このうち60分を個人授業に当て、学校で習う国語教科を指導。残りの30分は全体学習で、日本文化などを紹介する。

日本語をうまく使えない子どもの中には、学校側から「もっと日本語を勉強して」と求められることを負担に感じたり、クラスメートからいじめを受けることもあるという。教室では、児童や生徒の悩みを打ち明けてもらえる場として、心のケアも目指し

【山本健太】



日本語を母国語としない児童・生徒向けに開く教室の様子  
＝JTMとくしま日本語ネットワーク提供

兼松会長は「教室の回数が増えることで、子どもたちの学習意欲が高まるだけでなく、心のよりどころにもなれる」と話している。

「にほんご寺子屋」は、保護者向けの教室も月1回開く。問い合わせは、JTMとくしまの事務局(0888・625・8388)まで。